

# CentreCOM® 8216FXL/SMSC リリースノート

この度は、CentreCOM 8216FXL/SMSCをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

なお、本製品付属のハードウェア設置マニュアルは、「CentreCOM 8216FXL/SC」のものとなっています。製品名を置き換えてお読みください。CentreCOM 8216FXL/SCと異なる点については本書に記載してあります。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.5.0J

## 2 本バージョンで追加・削除された項目

ソフトウェアバージョン2.4.2Jから2.5.0Jへのバージョンアップにおいて、以下の項目が追加・削除されました。

### 2.1 イングレスフィルター設定について

[Virtual LANs/QoS] メニューに、各ポートでイングレスフィルターの有効・無効を設定する [Ingress Filter configuration] メニューオプションが追加されました。以下に設定手順を示します。

- 1 [Main Menu] -> [Virtual LANs/QoS] -> [Ingress Filter configuration] とすすみます。
- 2 「Ingress Filter configuration」画面からポート番号を選択し、「Ingress Filter Menu」画面を表示します。次の画面は「ポート 1」を選択した場合です。



#### Enable Ingress Filter/Disable Ingress Filter



イングレスフィルターの有効・無効を設定します。デフォルトは Enable Ingress Filter です(ソフトウェアバージョン 2.4.2J 以前は常に Enabled)。

#### Enable Ingress Filter


受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致した場合のみパケットを受け入れ、それ以外は破棄します。

#### Disable Ingress Filter

受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。


- 
 本製品でIGMPスヌーピング機能によるマルチキャストグループの登録を行い、かつ、本製品にIGMPメッセージを送信しないマルチキャストパケット送信専用サーバーなどを接続した環境の場合、サーバーの接続ポートをDisable Ingress Filterに設定することにより、サーバーから本製品に登録されたマルチキャストグループ宛のフラディングが可能になります。
- 
 マルチプルVLANモード時はこのメニューオプションが表示されません。イングレスフィルターはデフォルトのEnabledで動作します。

## 2.2 Fan/Over-Temperature トラップについて

 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」 2-45ページ

Fanトラップ(ファンの異常検出時に発行)と、Over-Temperatureトラップ(システム内の温度異常検出時に発行)を、システムの起動後2回目以降の異常発生時(一度通常状態に復旧した後、再度異常が発生した場合)にも送信するよう機能拡張しました。

## 2.3 Xmodem によるソフトウェアのダウンロードについて

 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」 2-22ページ

[Administration] メニューから、Xmodemによるソフトウェアのダウンロードを行う [XModem software update to this system] メニューオプションが削除されましたので、ご了承ください。

Xmodemを使用してソフトウェアをダウンロードする場合は、Bootメニューから行ってください。以下に手順を示します。

- 1** 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、または [Reset and restart the system] オプションを選択して、システムを再起動します。
- 2** 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。

```

BOOT VerX.X

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....
  
```

- 3** Bootメニュー(ATI Diagnostics)が表示されたら、「->」プロンプトに続けて`[X]`を入力し、`[X: XMODEM download updated System Software]` オプションを選択します。

```
ATI Diagnostics

Model: AT-XXXX, Revision Level: XX
MAC Address: 0000F4272821/0000F4272821

Select an option:

R: RAM Tests
U: UART Tests
A: All of the above Tests
C: Continuous Tests
> S: Single Test

O: Other System Tests
B: BOOT System Software
X: XMODEM download updated System Software

D: Restore all configuration data to factory defaults

M: Memory Byte/Word/Dword
P: Port I/O
Z: Change Terminal Speed

->
```

- 4** リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。

```
The System is now ready for download. Please start your XMODEM transfer.
CCCCC
```

- 5** コンピューター(コンソール)から、ファイルを転送します。  
プロトコルタイプは「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します(ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください)。
- 6** ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、システムは自動的に再起動します。

```
XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash PROM.
```

- 7** 「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)」と表示されたら、`[Enter]`キーを押します。
- 8** メインメニューが表示されます。

### 3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 トランクグループのポートを以下の例のように再設定した場合、変更前と変更後の最小番号ポートにマルチキャスト/ブロードキャスト/送信元MACアドレス未学習のユニキャストパケットがフラッディングされていましたが、これを修正しました。  
例: トランクグループのポートを 3~4 → 1~4 に変更した場合(3 → 1 のようにグループの最小番号ポートをより小さい数に変更した場合)、ポート 3 とポート 1 (変更前と変更後の最小番号ポート) にフラッディングされる。
- 3.2 RRP スヌーピングの設定を「Null(not configured)」に戻したとき、ログに「RRP - Ports ""」のメッセージが二重に表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.3 本製品にTelnet接続し、メニューから他の機器にMACアドレスによる指定でPingを実行した場合、RRPを発行せずPingがタイムアウトになることがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 本製品に拡張モジュール「AT-A15」を実装してリブートを繰り返すと、「AT-A15」の1000BASE-Xポートがリンクアップしなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.5 本製品と同一のIPアドレスを持つコンピューターを接続してしまった場合、コンピューターのIPアドレスを正しい値に変更するなどしても、本製品を再起動しない限り、本製品宛通信、および本製品からコンピューター宛の通信ができませんでしたが、これを修正しました。
- 3.6 マルチプルVLANモード設定時に、SNMP マネージャーからmib fdb情報をGetできるように修正しました。
- 3.7 SNMP でifDescrを参照する際に、ifEntry.1~ifEntry.24、またはifEntry.1とifEntry.2のように複数同時に取得しようとする時、本製品が誤った値を返す場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.8 SNMP RMON総受信パケット数にUndersize、Oversize、Fragmentパケット数が含まれるように修正しました。
- 3.9 マネージメントポートと同一のVLANに属しているポートがすべてリンクダウンしている状態で、本製品からの送信(Ping、Trap)が発生すると、本製品宛の通信が不可になっていましたが、これを修正しました。
- 3.10 拡張モジュール「AT-A14」の100BASE-TX/1000BASE-Tポートと接続先のポートを100Mbpsで通信させると、Fragmentsが多発し、通信が遅くなる場合がありますでしたが、これを修正しました。

## 4 オペレーションマニュアルについて

ソフトウェアバージョン2.4.0Jで、オペレーションマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」というAT-S24/AT-S26 ソフトウェア搭載製品共通のマニュアルに改版されました。

このマニュアルは弊社ホームページに掲載されていますので、同梱のマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」でない場合は、そちらをご覧ください。

初期バージョン以降、どの機能がどのバージョンで追加されたかは、v ページ「追加機能と対応ソフトウェアバージョン」に記載されています。


「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」へのリンクはこちら：

<http://www.allied-telesis.co.jp/support/8216fxlsmc/manual.html>

## 5 オペレーションマニュアルの補足・誤記訂正

「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」の補足と誤記訂正です。


### 5.1 ポートミラーリングのポート設定について

 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」2-72ページ

ポートミラーリングのソースポートとミラーポートは、次の2グループの同一グループ内で指定してください。


- ポート 1～8
- ポート 9～16

### 5.2 MAC テーブルの消去について


 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」2-124ページ


ダイナミックに学習した MAC アドレスの登録をすべて消去する [Clear dynamic MAC table] オプションについて、MAC アドレステーブルに MAC アドレスが 4,000 個以上登録されているような場合は、このオプションを 2 回実行するようにしてください。一度の実行ではすべての MAC アドレスが消去されない場合があります。

### 5.3 最大トランクグループ数について

 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」2-64ページ

最大トランクグループ数を示す表において、1000M [拡張モジュール] の数に誤りがありました。以下のとおり訂正してお詫びいたします。


 [2] (2グループ)

 [1] (1グループ)

## 6 本製品の仕様

本製品は、シングルモードファイバー対応の100BASE-FXポートを16ポート装備しています。マルチモードファイバー対応のCentreCOM 8216FXL/SCと異なる仕様、および本製品の機器仕様について説明します。

### 6.1 ケーブル仕様

 「ハードウェア設置マニュアル」1-4, 3-4, 3-11 ページ

ケーブルはシングルモードの光ファイバーケーブルで、コア/クラッド径が9.5/125 $\mu$ mのものを使用してください。最大ケーブル長は、通信モードがFull duplexの場合は15km、Half duplexの場合は412mとなります。

適用ファイバー	9.5/125 $\mu$ mシングルモードファイバー※
伝送距離	0m~15km
伝送損失	0.5dB/km以下

※ ITU-T G.652 適用ファイバー

### 6.2 コネクタ仕様

 「ハードウェア設置マニュアル」3-11 ページ

100BASE-FX インターフェース

2連SCコネクタを使用しています。

項目	100BASE-FXインターフェース
波長	1310nm
送信光パワー	-15.0dBm~-8.0dBm
受光感度	-28.0dBm以下

### 6.3 機器仕様

 「ハードウェア設置マニュアル」 3-12 ページ

<b>電源部</b>	
定格入力電圧	AC100-240V
入力電圧範囲	AC90V~255V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	4.0A (AC100V-120V)
平均消費電力 (拡張モジュール未装着時)	60W (最大64W)
平均発熱量 (拡張モジュール未装着時)	52kcal/h (最大55kcal/h)
<b>環境条件</b>	
保管時温度	-20~60℃
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度	0~40℃
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
<b>外形寸法 (突起部含まず)</b>	
	440(W) X 357(D) X 66(H)mm
<b>重量</b>	
	約6.5kg
<b>MACアドレス登録数</b>	
	8,000個 (最大)
<b>メモリー容量</b>	
拡張モジュール未装着時	8MByte
<b>適用規格</b>	
EMI規格	VCCIクラスA
<b>サポートするMIB</b>	
MIB II (RFC 1213)	
イーサネットMIB (RFC 1643)	
ブリッジMIB (RFC 1493)	
インターフェース拡張グループMIB (RFC 1573)	
プライベートMIB	

